

よみさんぼ

大宮見沼

第18号

写真家 野口勝宏

やどかりの里発！ 地域発見マガジン

特集

本があるコミュニティスペース

編集 公益社団法人やどかりの里「大宮見沼よみさんぼ」編集委員会

特集

本がある コミュニティスペース

まちライブラリー@ゆずり葉

JR浦和駅から市役所に向かって10分ほど歩いたところに「まちライブラリー@ゆずり葉」（以下、ゆずり葉）があるのをご存知でしょうか。見た目はいたって普通の民家なので気づかずに通り過ぎてしまう人も多いかもしれません。ゆずり葉は空き家を活用し、地域交流の場として誰もが自由に入出入りしてほっと一息できる場所となることを目指してつくられました。

今回は、ゆずり葉の運営母体である「一般社団法人コレカラ・サポート」の代表、千葉晃一さんにお話を伺いました。

「自宅を地域の交流の場に」という遺志を受け継いで

玄関を上がると二間続きの畳の部屋が広がり、炉が切られた茶室で千葉さん



コーヒーを入れてくださる千葉さん



茶花茂る庭

がドリップコーヒーを入れて迎えてくださいました。この家にはもともと茶道の先生がお住まいでした。コーヒーを抹茶茶碗でいただくことから、この家のありし日の姿が偲ばれます。かつてお茶室だった広い部屋の縁側からは、浦和の市街地であることを忘れさせるような茶花茂る庭が見え、まるでおばあちゃんの家に来たような、どこか懐かしい気持ちになります。

千葉さんは、高齢者の暮らしや相続についての相談業務を仕事とし、ご自身の母親と祖母の介護経験から、当事者へのサービスはあっても、その周りの家族へのサポートが行き届いていないことに問題意識をもっていました。ほんとうに困っている人は家から出られない、でもきっかけがあれば、例えば家の内と外の境界である縁側のように、いつも開いていて誰かがいる場を提供したら出かけられるのではないか……との思いがあったそうです。

そんな中、もともとゆずり葉の家主だった方が亡くなり、その方がご家族にあてた「自宅を地域の交流の場として役立てて欲しい」という遺言と、そのご家族の協力もあって、2014（平成26）年末に「en（えん）プロジェクト」^注）を立ち上げました。facebook を利用し、どうしたら遺志を活かすことができるのか、いっしょに考える仲間を募集したのです。そこから資金集め、家の片づけに取り掛かり、ついに2015（平成27）年6月ゆずり葉の開所に至りました。

人とのつながりで成り立つ場

とはいっても、ゆずり葉は家族の介護に迫られる人や、家族を亡くしたご遺族だけを対象とした場ではないと千葉さんは言います。「対象者の細かな分類をすると、それに当てはまらない人は関心をもたない。一見まったく接点のない人たちでも、きっかけがあることで自然と新しい交流が生まれる。ここに来て出会うことで顔が見える関係づくりができていく」と話してくださいました。実際ゆずり葉にはご近所の方を中心に、水曜日に実施している茶道のミニ講座を目当てに来る人もいれば、「日中話し相手がないので」とおしゃべりに来る人、子育て中のお母さんなどさまざまな人が来ます。好きな時に来て、好き

注)「縁」「円」「entry（エントリー）」の頭文字をとった空き家活用事業（一般社団法人コレカラ・サポート HP より）

な物を持ち寄り、いっしょにお昼ご飯を食べたりお茶を飲みながら話をしたり、そこから千葉さんへの相談につながることもあります。介護の問題を抱えている人や障害のある人、その背景はさまざまでも、どこかほっとできる場所に行きたい、誰かと話をしたいという想いは同じなのです。ゆずり葉は、「人と人とのつながりを求める想いで成り立つ場」だと話されました。

まちライブラリーであること

ゆずり葉は単なるコミュニティスペースではなく、まちライブラリーという顔も持ち合わせています。まちライブラリーとは、本を通して人と出会い、関係を創ることを目的としたまちの図書館のことで、カフェや病院、オフィスの一角など、今では全国に300か所以上設置されています。「コミュニティスペースと言われても、近所の人は具体的に何をするのかかわからずイメージしにくいですが、『本』というものがあるだけでイメージが膨らむ」と千葉さんは話します。それぞれが寄贈する本にはメッセージをつけて持ち寄り、本棚に並べます。次にその本を読んだ人が更に感想を書き足していくことで、本を通じたコミュニケーションができていくのです。置き場所に困った本を処分するのではなく、この本を他の人に薦めたいという気持ちがまちライブラリーを創っていくのでしょう。取材に行った際も、市内の図書館や学校の図書室の現役司書やOGの方がご近所の方と楽しく会話しながら、本の整理や登録作業をされていました。月に一度の本の登録デイは誰でも参加でき、ここからも本を通じた人の輪が広がっているようでした。



まちライブラリー



本に寄せる推薦文

大切にしたい「恩送り」

ゆずり葉ではスタッフという役割をもつ人はいても、ただ場の提供をすることが役割ではありません。またゆずり葉の利用者が増える中で、利用にあたってルールを決めざるを得ないこともあります。千葉さんは「ルールで固めるのは簡単だけど、それではここの良さがなくなる。何よりもまずこの家を提供してくださった方の遺志を第一に、利用する人みんなで行う共同の自主運営が理想」と話します。そしてそれは、利用に際して1回いくらの対価を払う「ギブ&テイク」の考え方ではなく、この場所を大切に想う人が自分の特技を活かしてできることをする、「オールギブ」すなわちペイフォワード（恩送り）の形なのだと語ってくださいました。みんながそのような共通認識をもつことは簡単ではないと思いますが、「地域の交流の場となるように」とこの家を提供してくださった主とご家族の想いが、ゆずり葉に集う1人1人の意識に結びついているのではと感じられました。

それぞれの得意なことや興味関心を活かして、これまでに片付け講座や傾聴講座、浦和〇〇部という各種部活動、鍋の会やワインの会などのイベントも行われてきました。ゆずり葉は日々変化しながら、世代を越えた1人1人の力で創られています。ぜひ皆さんも一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

（取材：浅見典子，神崎いずみ）

まちライブラリー@ゆずり葉

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町 3-3-11

開館日 月曜、水曜

11:00～16:00

TEL 050-3633-8343

電話受付時間/月・水 11:00～16:00

<https://www.facebook.com/library.yuzuriha>



やどかりの里の仲間たち・17

本を通して人と人，地域をつなぐ



山田 玲子さん (まちライブラリー@ゆずり葉, 司書)

「まちライブラリー@ゆずり葉」(詳しくは本誌特集参照)の運営に参加している山田さん。それまで長く公立図書館の司書として働き、本や図書館には人を集める魅力があり、図書館が地域活動の拠点になる可能性を感じていたそうです。しかし、大きな公立図書館で利用者同士が顔の見える関係づくりをするのは難しく、また住民が職員と対話しながら共に地域の文化を育てることよりも、貸出数など目に見える成果ばかり重視される風潮に疑問を感じていました。

「そんな時出会ったのが、船橋の民間図書館の活動です。さまざまな世代や立場の人が集い、本のある空間でゆるやかにつながり、初対面の人ともすぐに打ち解けることができました。その雰囲気と楽しさに夢中になりました」と山田さん。そして退職を決めていた3月、浦和でコミュニティスペースを作るために空き家の片付けをしている人たちがいると知り、すぐに訪ねて小さな図書館の提案をしたのです。その空き家は、静かな空間がとても居心地が良く、「ここに本があったらどんなに素敵だろう」と思ったそうです。それが現在のまちライブラリー@ゆずり葉です。最近では、集まる人たちでイベントを企画したり、地域の人たちの居場所としてどんどん成長していくのを感じているそうです。

現在は週1回、やどかりの里のスタッフとしても活動されています。やどかりの里の仲間たちと読書会をしたり、本を持ち寄って図書コーナーを作ったりと、「場所は違っても私のしていることは、まるでそっくりで面白いです」と笑って話されました。地域のことも詳しく、地域の面白い人やうなぎ、さつまいろの話を始めたら止まりません。今は珍しいマンホールの柄を見つけるのに夢中だそうです。そんな楽しい山田さんに会いに、ゆずり葉さんややどかりの里を訪ねてみませんか。

(記 尾形 志保)



よみさんぽ 日誌

子どもから大人まで楽しめる風波野文庫

長く図書館司書として働いてきた私たち夫婦は、子どもたちと本を読むことの幸せを満喫してきました。退職後も子どもと本のそばにいたいと開いたのが「風波野文庫」（さいたま市見沼区）です。

子ども時代に本を読んだり、お話を聞かせてもらった体験は、生涯にわたる根っこをつくるというのが、私たちの信念です。もう1つの信念は、これは3人の我が子を共働きで育てた経験から、本の読み聞かせは子育てを楽にしてくれることです。1日の終わりに、子どもの遊び相手は疲れてしまってできなくても、本を読むことならできます。体をくっつけて読み聞かせをしていると、自然に子どもの心の動きが伝わってきます。時には大人も及ばないような深い受け止め方や愉快な発見に驚かされ、子どもから学ぶこともたくさんあります。そうやって親子で楽しんだ本は、その家の文化にさえなるのです。

本選びの1つの目安として、長く読み継がれてきた本を選んでみてください。『ぐりとぐら』『三びきのやぎのがらがらどん』『ひとまねこざる』『はらぺこあおむし』など、いつの時代の子どもも喜ばせてきた古強者です。自分が子どもの時に読んだという方もいるでしょう。親子で同じ本を楽しめるのは幸せなことです。

風波野文庫では、そんな本選びのお手伝いをしたり、子どもに本を読んであげたりしています。子どもから大人まで、のんびり楽しく過ごせる空間です。どうぞ遊びにいらしてください。（記 杉山 英夫、きく子）

風波野文庫

さいたま市見沼区風波野 689-4

TEL : 048-686-6990 / 開館日 : 金曜 14 : 00 ~ 18 : 00

あの街
この街

俊一郎が行く・12

反発と沈黙が遮った言葉

戦争の教訓と沈黙

東京でのサラリーマン生活を終えた祖父が郷里の「田舎」に隠居を構えたのは、私が物心つく前のことだったようです。改めて思えば、子ども時代の私にとって、祖父は不思議な存在でした。戦争に行っていたことがあること、消防署に勤めていたことを昔話として聞くことはあっても、現役時代を知らない身としては、趣味程度の畑を耕して暮らしている人、と思っていたのかもしれませんが。そんな祖父が、夕飯時に酒に酔うと決まって語り始めるのが戦時中の教訓めいた話でした。おとなしく聞いていれば良いものを、国粋主義的に感じたその内容に、西洋からのカタカナのものに憧れを感じていた10代の私は反発し、そして喧嘩となって互いに沈黙するのが常でした。

祖父との話

そんな祖父も、生々しい自身の戦争体験を語ったことはありませんでした。積極的に話したいことではなかったのかもしれませんが、何気ない夕飯時の会話の中で、終戦から2年間、出征先の東南アジアの島に留まっていたことを知りました。補給がなく手持ちの食料が途絶える中、食料の調達は自ら行わなくてはならず、みんなで手分けして凌いだことを話してくれました。うろたえる人がいる一方、祖父や祖父と同じように農村出身の人は植生の異なる地で畑を開墾し、配給の中に残っていたサツマイモの栽培を試みるなどしていたようです。常夏のその島では、サツマイモは蔓ばかりが伸びて、芋をつけることはなかったそうです。しかし、剪定などを工夫していくうちに栽培方法を見出すことができ、その他にも現地で見つけた作物の栽培を試み



開墾し、配給の中に残っていたサツマイモの栽培を試みるなどしていたようです。常夏のその島では、サツマイモは蔓ばかりが伸びて、芋をつけることはなかったそうです。しかし、剪定などを工夫していくうちに栽培方法を見出すことができ、その他にも現地で見つけた作物の栽培を試み

とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。（写真 新 良太）



たことを話してくれました。

島での暮らし

開墾の合間には、生き物や果物の収集などにも出かけたようです。どうりで「田舎」で捕まえたマムシを上手にさばいて食べさせてくれたわけです（マムシで作ったハンバーグは、今でもまた食べたい美味しさでした）。仲間と苦勞を乗り越えた話を楽しそうに話してくれる祖父の姿に、島で食べた中でもっとも美味しかったものは何かを聞いてみました。答えは「パパイヤ！」祖父とは不似合いなトロピカルフルーツの名前に、居合わせた家族は大笑いでした。

祖父が割り当てられた引揚げの船に乗って日本に着いた時は、終戦からおおよそ2年が経っていました。初夏を迎えつつあったその時、港から故郷へは同郷の後輩と汽車に乗って向かいました。途中の駅で人数分の弁当を買い、久しぶりの祖国の味を楽しみに開けた弁当の中身は、たくさんの噛めないような固い筍と、ほんの少しの茶飯だったようです。その間にも汽車は進み、駅弁売りにはもう会えない、その時の恨みを昨日のこのように話してくれました。

ほんとうに伝えたかったこと

祖父は一通り話し終えた時、大きく息を吸ってから「二度と戦争はあってはならない」と言いました。子ども時代に聞かされた「教訓」を考えれば、意外な一言でした。しかし、私の反発と沈黙が、ほんとうに祖父が伝えたかったこの言葉を遮ってしまっていたのかもしれない。しかし、今になって思えば重みのある一言でした。

写真左：祖父

写真右：復員に関する書類



第20回日本健康福祉政策学会学術大会 in 埼玉のご案内

大会のテーマ **いのちの種を明日へつなく** ほっこりと共に育つ

みなさまのご参加をお待ちしています



「いのちの種」とは……

「日本健康福祉政策学会」という小さな学会があります。2016（平成28）年11月12日（土）～13日（日）、大宮ソニックシティの市民ホールと9階会議室などを中心に開催されます。

なんだか難しそうな集まりに感じますが、各地で健康づくりなどに関わっている住民の人たちも参加します。今年は、本誌を発行しているやどかりの里が中心になって準備を進めています。

大会のテーマは、「いのちの種を明日へつなく ほっこりと共に育つ」です。本誌第16号（2016年1月）でご紹介しましたが、やどかりの里では、障害のある人たちとともに自然栽培法という農法に取り組んでいます。まだまだ始まったばかりですが、農薬や化学肥料、有機肥料もたい肥も使わず、土の持っている力、種が本来持っている生命力、太陽の熱や光、水などの自然の恵みで

植物を育てる農法です。人間と自然が力を合わせて、農作物を育てていく営みなのです。大会テーマにある「いのちの種」は、この自然栽培法に由来しています。収量を上げるための一代限りの「種」ではなく、次につながる「種」の大切さを考えていこうというメッセージが込められています。

「ほっこりと共に育つ」とは……

「ほっこりと共に育つ」ですが、やどかりの里にたどり着いた精神障害のある人たちが、安心して過ごせる場、自分を生かせる仕事、理解し合える仲間を得て、自分の人生を取り戻していくプロセスに注目しました。それは障害や病気の有無にかかわらず、大事なことなのだと思います。人が人や自然とのかかわりの中で育っていくこと、そんなことを考えてみようと思っています。

もう1つ大事にしたいことは、2011（平成23）年の東日本大震災で被災し、なおかつ福島第一原発事故の影響が今も色濃く残っている福島の現状を共有することです。そこから何を考え、福島のことを他人事とするのではなく、自分のこととして何を学んでいくのかを考える機会にしたいともっています。

スペシャルゲストに内山節さん、斎藤なを子さん

内山節さんは、1970年代から東京と群馬県上野村を往復しながら、自然と人間が共同して生きる社会のありようから、私たちがこれから生きる社会をどう考えていくのかを問いかけています。閉塞感漂う今の社会の問題を見つめながら、地域の中でつながりながら生きていくことを、内山さんのお話を聞きつつ考えていかれたらと思っています。

斎藤なをさんは、本誌前号にも登場しました。北浦和で生まれ、育ち、さいたま市内に根を下ろして活動する社会福祉法人鴻沼福祉会のリーダーとして、障害のある人とともに生きられる社会を仲間たちとともに創り続けてきました。

住民とともに、対話を大切に

会の名称はちょっと固いですが、専門用語が飛び交う学会ではなく、普段の言葉で、住民の参加を大事にしている集まりでもあります。この機会にこの小さな学会に参加してみませんか。（記 増田 一世）

第20回日本健康福祉政策学会学術大会 in 埼玉

大会のテーマ **いのちの種**を明日へつなぐ
ほっこりと共に育つ

大会長 増田 一世（公益社団法人やどかりの里常務理事）

記念講演 内山 節（哲学者）

特別講演 斎藤なを子（社会福祉法人鴻沼福社会常務理事）

開催日 2016年11月12日（土）～13日（日）

会場 大宮ソニックシティ 市民ホール・9階会議室

プログラム

11月12日（土）

9:00～9:30 受付

9:30～10:00 総会

10:00～10:10 開会式

10:10～10:30 基調報告 政策学会の20年から見えてきたこと
福島からの学び やどかりの里の実践を踏まえて 増田 一世

10:30～11:30 リレートーク 福島・やどかりの里, いのちを見つめて（仮）
福島からのメッセージ 渡部 育子（ふくしま心のケアセンター）
やどかりの里からのメッセージ やどかりの里から
いのちの種からのメッセージ 宗野 政美

11:30～12:00 公開討論1 リレートークを受けて考えること
松田 正己（東京家政学院大学），岩隈 道洋（杏林大学），増田 一世

12:00～13:00 昼休み

13:00～14:20 記念講演 私たちの生きる社会
改めて共同体的な関係を考える（仮） 内山 節（哲学者）

14:30～15:15 壁新聞発表

15:30～17:00 ワークショップ

17:30～ 懇親会（パレスホテル大宮）

11月13日(日)

9:30～11:00 ワークショップ

11:15～12:00 特別講演 障害のある人と切り拓いてきたこと

齋藤なを子(社会福祉法人鴻沼福祉会常務理事)

12:00～13:00 昼休み

13:00～14:50 公開討論2 いのちの種を明日へつなぐ

岩永 俊博(健康なまちづくり支援ネットワーク), 加藤 康士(やど
かりの里・メンバー), 橋本由利子(福島・NPO法人コーヒータイム),

浅見 典子(やどかりの里職員), 塩飽 邦憲(島根大学名誉教授)

進行: 反町 吉秀(国立精神・神経医療研究センター自殺総合対策推進
センター地域連携推進室), 大澤 美紀(やどかりの里職員)

14:50～15:00 閉会式

○大会参加費 会員(4,000円) / 一般(5,000円) / 学生・障害のある人・
市民(1,000円)

○お弁当 11月12日(土) 幕の内弁当(1,000円)

11月13日(日) 鳥めし弁当(1,000円)

○エクスカーション 11月11日(金) 13:30～17:00 (2,000円)

○懇親会 11月12日(土) 17:30～(5,000円)

お申込み・お問い合わせは下記まで _____

日本健康福祉政策学会事務局

〒337-0026 さいたま市見沼区染谷1177-4 やどかり情報館内

TEL 048-680-1891 FAX 048-680-1894

E-mail: kenkouhukushi@yadokarinosato.org

大会ホームページ

[http://www.yadokarinosato.org/SEISAKU-G/etc/gakujututaiikai/
gakujututaiikai_20.html](http://www.yadokarinosato.org/SEISAKU-G/etc/gakujututaiikai/gakujututaiikai_20.html)

インフォメーション

のぞみホーム スタッフ募集

障害のある人たちが暮らすグループホームでスタッフを募集しています。勤務内容や勤務時間、日数など、ご事情やご希望に応じて相談できます。経験はないけれど、関心のある方の見学もお受けしますので、お気軽にお電話ください。

○たとえばこんな働き方ができます……

*入居者の生活支援スタッフ

勤務内容：食事や入浴、身支度の介助・支援、通院介助、居室の掃除や洗濯の支援等
勤務時間：7:00～10:00 または 16:00～21:00

*夜間支援スタッフ

勤務内容：夜間の見守り等
勤務時間：22:00～6:30（2時間休憩）

*調理スタッフ

勤務内容：入居者の夕食および朝食づくり（10食程度）
勤務時間：15:00～18:00

○給与 各種手当、賞与等は勤務時間数に応じて

18:00～22:00	および	5:00～9:00	900円
22:00～5:00			1,125円
15:00～18:00	および	9:00～10:00	820円

○連絡先

さいたま市見沼区南中野 462-4 埼玉縣信用金庫片柳支店近く
tel 048-872-7665 担当：酒井依子

「熊本地震」募金協力をお願い

九州地方に甚大な被害を与えた「熊本地震」。犠牲になられた方に心よりお悔み申し上げるとともに、被災されているすべての方にお見舞い申し上げます。

障害のある人たちの支援活動を展開するきょうされんでは熊本地震への募金を呼び掛けています。みなさまのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

郵便振替 □座名義：きょうされん自然災害支援基金口
□座番号：00100-7-86225

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

こうぬまふくしかい

社会福祉法人 鴻沼福祉会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いちぶ
豆腐屋 一豆

TEL 048-854-8000

FAX 048-854-3538

さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりにこだわった本格とうふ。
宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。
大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜひたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910

FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円筒1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。(一部商品を除く)

この道30年の職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。



弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。
野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをとおして障害のある人がさらに輝けるチャンスをお求め新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

○障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！ 問い合わせ先：048-854-6890 (担当オガワ)

鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円筒1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL:048-854-6890 FAX:048-856-0313

《はたらく》●つばさ共同作業所(中央区) ●あざみ共同作業所(見沼区) ●そめや共同作業所(見沼区) ●きりしき共同作業所(中央区)

●さいたま障害者労働センター(楊川市)

《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえてホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ

●なつめホーム(以上、中央区) ●のぞみホーム(見沼区)

《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢 ●地域活動支援センター来夢(以上、中央区)

●見沼区障害者生活支援センター来人(見沼区)

大宮見沼よみさんぽ

作者紹介

写真家 野口勝宏さん

猪苗代町生まれ。写真家。東日本大震災を機に「福島の花の美しさで世界の人々を笑顔にしたい」と「福島の花 Flowers of Fukushima」シリーズを制作。福島県観光キャンペーン「福が満開、福のしま」においてはJR 東日本のメインイメージに採用され、駅構内・車両を花で彩る。全国各地での写真展開催のほか、病院や福祉施設などでの展示も手がける。また、2016年5月より国内就航を開始したANAの復興支援「東北 FLOWER JET」の機体を福島や東北の花々でデザイン。全国に明るさを届けたいと活動を続けている。

野口勝宏オフィシャルサイト <http://noguchi.photo>

表紙：タチアオイ

たがいの鼻柱につけた花びらが

ニワトリのトサカに見えて笑いあったあの頃

夏の太陽が見せてくれた

強く咲くものの思いがけない細やかさ

題字 宗野文さん

学生時代から書道が大好きで、子育て中の今、我が子とともに習字に再挑戦中。やどかりの里の作業所「すてあーず」所長。見沼区南中丸在住。

大宮見沼よみさんぽ 第18号

発行 2016年7月（夏号）

編集 「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷
1177-4

Tel 048-680-1891

Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<http://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 土橋敏孝

印刷所 やどかり印刷

公益社団法人やどかりの里は、この大宮見沼界隈で障害のある人たちとともに地域で生きることを目指して活動を続けています。私たちは長年この地域で活動し、地域の皆さんに支えていただけてきました。

そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました。

「大宮見沼よみさんぽ」編集委員一同